

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
<p>1 「勉学を第一義とすること」を踏まえ、質の高い学力を育成する。</p> <p>・知的好奇心旺盛な生徒に、本質に触れる質の高い授業を提供する。生徒1人1台端末を効果的に活用するなどして、生徒の主体性を高める指導法の研究に努めるとともに、新しい大学入試で求められる力及び大学卒業後もイメージし、過年度生も含めた生徒の高い進路志望の実現を図る。</p>	<p>① 授業において「本質に触れる指導」「生徒の主体性や対話力の向上、協働・共生する力の育成」、「自走し続けられる生徒の育成」を目指す。そのために、「自走し続けられる生徒の育成」をテーマとして生徒1人1台端末を活用する研究授業を、各教科や少人数のグループ単位で行い、授業改善に取り組む。</p>	<p>「授業が充実しているか」の質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4、3、2、1を乗じて、加えた値αを算出する。</p> <p>① 「よくあてはまる」 ② 「ややあてはまる」 ③ 「あまりあてはまらない」 ④ 「全くあてはまらない」</p> <p>αの値が、 A 3.60以上 B 3.55以上 C 3.50以上 D 3.50未満</p>	<p>[判定] A 3.68</p>	<p>・12月に実施した授業評価で、「授業が充実しているか」の質問に対する全体の平均が3.68であった。昨年同時期3.64、一昨年同時期3.64と比べて上昇している。7月実施の授業評価からは全体で0.01ポイント下降したが、各教科ともに高い結果であった。</p> <p>・「自走し続けられる生徒の育成」を意識して授業がなされ、生徒が主体的・能動的に参加する授業になっているのが「充実度」上昇の原因ではないかと思われる。</p> <p>・「生徒の自走」のための研究授業の結果やその手法の共有化ができ、次年度の授業改善にも活かされることが期待できる。</p> <p>・次年度は全学年とも3観点評価が導入され、今まで以上に主体性や思考力・判断力・表現力を伸ばす授業が求められるので、引き続き「生徒の自走」の手法の研究、共有を図っていきたい。</p>
	<p>② 生徒に、模試や大学入試の分析結果を提供し、大学・学部研究を深め、難関大学を志望する意欲を高める。特に、3年生には、東大・京大・医学部説明会や補習など、第1志望を貫く集団づくりを進める。また、共通テストに向け、習熟度別授業の実施や校内模試問題の研究により深い思考力の育成を進める。</p>	<p>東京大学・京都大学および国公立大学医学科合格者の合計人数(重複可)が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満</p>	<p>[判定] B 合計30人</p>	<p>東京大学9人、京都大学6人、国公立大学医学科15人、合計30人であった。医学科合格者は昨年度に引き続き例年に比べて多かったが、東大と京大の合格者は例年以下であった。これは多くの生徒が第一志望を貫き果敢に挑んだ結果であり、不合格者の多くが再挑戦するため、大いに期待したい。次年度も、浪人を恐れず第一志望を諦めない生徒を育てていきたい。</p>
	<p>③ ホーム担任を中心に、年間6回程度の個別面接指導を実施し、文理選択を含め自身の進路について考えさせる。また、学習時間調査の結果も踏まえた指導により、家庭学習の定着を図る。</p>	<p>1年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>[判定] A 98%</p>	<p>学年団による学年集会での呼びかけや、面接指導を素直に受け止めてくれる生徒が多い。今後も折に触れ、鼓舞していきたい。又、学習面をはじめ、躓きを感じている生徒を学年団全体で見守り、支援していこうと考えている。</p>
	<p>④ ホーム担任は、年間5回以上の個別面接指導を通して、高い進路志望の確立を図る。また、学習時間調査の結果も踏まえた指導を行い、家庭学習の定着を図る。</p>	<p>1年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>[判定] B 93%</p>	<p>・時期及び各生徒に応じた面談を年間5回程度実施した。進路志望の設計や学習に関するアドバイス、メンタル面のケアなどが主な内容である。</p> <p>・「教員の進路に関する情報や資料の提供が適切である」との項目にも、94%の生徒が肯定的な回答をしており、今後も進路指導課との連携を密にしながら、各生徒に応じたきめ細やかな指導を行っていきたい。</p>
	<p>⑤ 授業内容をより充実させるとともに、放課後補習および個人添削指導等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を展開していく。</p>	<p>難関10大学及び国公立大学医学部医学科の合格者数が、 A 100名以上 B 90名以上 C 80名以上 D 80名未満</p>	<p>[判定] B 難関10大学 78人 国公立大学医学科 15人 合計 93人</p>	<p>・生徒一人一人の志望や学力に応じ、担任だけではなく、学年と教科、進路指導課が連携しながら指導した。生徒の多くには放課後も教室や自習教室で学習し、切磋琢磨しながら学年全体として高い志望にあきらめずに挑んでいくよう働きかけ、生徒も最後まであきらめずに挑戦した。また、難関大学志望者には放課後補習や個人添削を実施するなど厚く対応し、それ以外の生徒にも個人面談を効果的に実施し、モチベーションアップやメンタル面へのサポートやケアを行った。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>普段から工夫された授業が展開されている。学年毎の目標が、最終学年の目標につながるようになって欲しい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>GIGAスクール構想を展開していくことで、さらに充実した授業を目指したい。学力の向上及び進路実現に向けて大学や社会の学びの内容について1年次の早期に講演会を実施するなど、進路指導課主導で各学年におけるキャリア形成を実践していく。</p>			

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
2 探究活動プログラムの進化・発展に努める。 ・これまで積み上げてきたSSH・SGHプログラムを進化・発展させ、2つのプログラムを融合させた新しい探究活動プログラムを実践する。そして、その指導法を本県高等学校に波及させる。	① これまで取り組んできた科学的な課題研究活動を進化・発展させることで、生徒の多面的・多角的なものの方見方、探究する力、思考する力、行動する力の向上を図る。また、普通科理型の課題研究では、3年間を通じたプログラムを確立し、普通科文型やSGコースのプログラムとの融合を实践する。	SSH・SGHアンケートにおいて、「複数の視点で物事や課題を考察する」「生まれた疑問や関心について、自ら解決しようとする」「エビデンスをもとに考察する」「必要だと気づいたことに対し自ら行動・挑戦する」態度を身につけているかという各項目で、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と回答するSSH主対象生徒の割合の平均が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 全体 82.0% 1年理数科 97.3% 2年普(文理) 79.6% 2年理数科 92.3% 3年普(理) 78.6% 3年理数科 92.3%	・理数科においては、海外研修を始めとする対外的行事を複数回を行ない、科学的思考力醸成の土壌が出来ており、例年通り、高い結果となっている。また、理数科においては校外での発表会や研究者の方との交流も多く、その結果とも考えられる。 ・普通科普通コースにおいては、今年よりクラスを横断したグループで活動をしており、文理融合を目指した探究活動を行なっている。今年度は体系作りに重きを置いたこともあり、例年以上の結果は出ていない。次年度以降は、このプログラムを深化させつつ、理数科に引けを取らない経験を積み重ねることで、改善を図っていきたい。
	② 課題研究を軸とした探究型学習プログラムの改善を図り、より「文理融合」を強化したカリキュラム開発を行う。また、グローバルリーダーに必要な種々の能力の育成を目標とし、その達成のために事業を展開する。	『SG探究基礎』（1年）、『SG探究』（2年）、『NS探究β』『SG探究活用』（3年）において、グローバルリーダーに必要な「目標の達成に向けて、考えや価値観の異なる他者とも協働しながら物事を進め、貢献する力」「自分の考えを相手に論理的に表現する力」に関わる項目で、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 全体 87.8% 1年普通科 88.0% 2年SG 93.6% 3年普(文)SG 85.3%	・「SG探究基礎」では、学期ごとの目標をより明確にすることで、生徒たちの取り組みに対する動機づけをより強固なものにした。また、3学期を次年度のための準備期間と位置づけ、他の生徒との対話など、自分の関心の範囲を広げる活動を導入した。 ・「SG探究」においては、様々なバックグラウンドを持つ外部講師を招待し、多様な内容の対話やディスカッションの機会をこれまで以上に増やすことで、生徒の問題意識の醸成、問題を自分事として表現する力の涵養に資することとなった。 今後これらの取り組みを踏襲しつつ、堅固な指導体制を構築していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		探究活動が文理融合型になったことで、多角的なアプローチができていく。将来社会に出れば、文理の関係なく課題を解決する視点が必要とされるので良い試みである。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		県内外の学校や研究機関及び地域力を借りながら、探究活動を深掘りした内容にしていく。		
3 「品位を高め、他者の人格を重んずること」をふまえて、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・挨拶の励行・環境美化・部活動・生徒会活動の活性化や、よりよい人間関係づくりに努める。	① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かなで、グローバル人材となる資質を育成する。	「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] A 93%	・今年度の「生き方講演会」は、創立130周年記念講演を兼ね、実業家のハロルド・ジョージ・メイ氏にお話していただいた。メイ氏の経営者として企業を立て直した経験を通じて適切な時期に適切な内容のものであった。 ・来年度も現在の生徒が求めるものや、生徒に必要なものを考慮して、講師や講演内容を吟味していきたい。
	② 基本的な生活習慣の確立を図ることを目的に、以下の挨拶指導を、学年集会やSTなどで繰り返し呼びかける。 ・場面に応じた、元気で明るくさわやかな挨拶 ・職員室等の入室マナー ・授業の開始、終了の挨拶	「私は、外部からの来校者に対してしっかりと挨拶や会釈をしている」と答えた生徒が、 A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	[判定] B 88%	・昨年比4ポイント増であった。 ・生徒は挨拶をしているつもりでも、相手に伝わっていないケースもあると考えられる。 ・来校者の中には挨拶（会釈）をされたという印象が強い方もいると思われる。 ・HRや集会を通して繰り返し指導を行っていく。

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
3	③ 「いじめを絶対に許さない」学校づくりを推進するために未然防止の取り組みを行う。	「他人の人格を重んじ、尊重する態度で接するとともに助け合う仲間づくりができる」と答えた生徒が、 A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	[判定] B 97%	・昨年比1ポイント増、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は6ポイント増であった。 ・29名（昨年度40名）の生徒が質問に対し、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答しており、学校内で良好な人間関係が築けない生徒がいることに留意しなければならない。
	④ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図るとともに部活動と勉学の両立（文武両道・文武不岐）をめざす。	県予選を通過しブロック大会以上の大会・行事等に出場した部活動が、 A 21以上 B 17以上 C 13以上 D 13未満	[判定] B 19の部活動が 出場した	・運動部、文化部ともに各種大会・発表会で練習の成果を発揮した。 ・県高校総体では、男子総合の部で第3位となり、県高体連より表彰された。
	⑤ 環境ISO活動を意識して、環境保全に配慮した生活となるようにする。 ゴミの分別 節水 節電	校内の環境保全活動に努めていると答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] A 91%	昨年度から2%アップし、B判定からA判定となった。内訳は「よくあてはまる」と回答した生徒が増えた。「よくあてはまる」と回答した生徒を普通科(1～3年)と理数科(1～3年)と比較すると、普通科48%に対し理数科40%とやや低い現状である。誰もができるごみの分別、節水、節電について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答する生徒の割合90%以上(判定A)を維持していきたい。
	⑥ 委員会活動、購入図書の精選、広報活動、教科や調べ学習の場の提供に努め、貸し出し冊数や入館者の増加をはかる。また、授業担当者や担任から、読書の魅力について積極的に呼びかける。	1年間の図書の貸し出し冊数が、 A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満	[判定] D 2,795冊の貸 出。昨年度と比 較すると、減 少。	・今年度の図書貸出冊数は、昨年より減少傾向。図書館入館者数も同様。今年度も感染予防の観点から、閲覧室の座席を昨年同様半分にして、快適な学習活動の場を提供。1年生の図書オリエンテーションでの貸出を嚆矢として、各学年の個人貸出も、例年通りであり、読書感想画の課題に関する貸出を含めて、図書館の利用状況は概ね良好といえるが、生徒各自が所有するchromebookの援用により、調べ学習等の貸出の減少が勢い貸出冊数の減少を招くものとなっている。 ・次年度においても、適切な感染予防対策を講じながら、魅力、特色ある図書館づくりに努めていきたい。
	⑦ 悩みや問題の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、生徒一人一人が希望を持って学校生活を送ることができるように支援する。	相談室を利用した生徒へのアンケート「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[判定] A 92%	12月末までに相談室を利用した生徒はのべ132名、実人数32名である。相談室を利用した生徒に対するアンケートの結果は、「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が92.3%であった。次年度も学年・保健室・スクールカウンセラーと連携し、生徒が気軽に相談を持ち込めるような相談室にしていきたいと考える。
学校関係者評価委員会の評価	アンケート等では、良い数値に注目しがちだが、少数の意見にも注意を払い、生徒の声を拾っていくことが大切である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	生徒面談で得た情報を、管理職、学年団、生徒指導課、相談室、保健室と共有していく。また、アンケート内容を改善していく。			

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）	
4 「正義を愛し、社会から信頼されること」を踏まえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。 ・授業公開など学校公開の機会の拡大を図る。地域社会と連携したボランティア活動を推進する。	① 保護者懇談会、PTA活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。	今年度の「PTA総会」、「いしかわ教育ウィーク」・「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校合計数が、 A 1200人以上 B 1000人以上 C 800人以上 D 800人未満	[判定] A 2170人	・各行事の参加人数は、「PTA総会」976人、「いしかわ教育ウィーク」494人、「生き方講演会（保護者向けは動画配信）」は約700人であった。 ・講演会は創立130周年記念講演と兼ね、動画配信であったが、かなり視聴されており、保護者の関心の高さがうかがえる。 ・保護者が来校しやすく、学校をより理解していただけるような行事運営をこころがけたい。	
	② 理数科、SSHプロジェクト係、SS部及び科学系部の生徒が「金沢泉丘サイエンスグランプリ」等、自ら企画・運営・参加する機会を増やし、内容を充実したものとすることで、科学教育の面から県内外に貢献する。	「理科教室、金沢泉丘サイエンスグランプリおよび金沢子ども科学財団との連携プログラム、サイエンスフェスタ等SSHのプログラムに参加して、どう思いますか」という質問に対して「大変良かった」と回答するプログラムの参加者の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 大変良かった (37/42) 88% 良かった (5/42) 12%	2/10の泉丘サイエンスグランプリで調査	・創立記念祭における理数科1年生主催の理科教室を開催したが、アンケートを集約しなかった。次年度以降は実施したい。 ・12月のサイエンスフェスタでは、泉丘として3ブース設置し、のべ200名程度の参加者を集めた。概ね95%以上が「大変良かった」と回答している。 ・泉丘サイエンスグランプリは2/10（土）に金沢子ども科学財団と共催で実施した。理数科1年生がヤングサイエンスメンターとして企画・運営を行ない、参加者全員が「大変良かった」もしくは「良かった」と回答した。
	③ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、保護者に学校の様子を理解していただく機会を増やし、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 1年 86.5% 2年 84.3% 3年 84.8%		学習面については進路だよりを発行（9回）し、行事については学期毎に行事予定表を配付した。また、行事に関してはその様子をホームページにも記載。
学校関係者評価委員会の評価		コロナ感染症による制限がなくなり、多くの生徒や保護者が学校を訪れるようになっている。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		今後も積極的に情報発信を行い、開かれた学校づくりに努めるとともに、各種行事の内容もさらに充実させていく。			
5 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。 ・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。	① 業務の見直し、密度の濃い会議運営など組織運営の効率化、職場環境の改善、教職員の意識改革、時間管理の工夫等を進める。これにより、教職員のワーク・ライフ・バランスをとり、教育活動の質の向上を図る。	ワーク・ライフ・バランスをとることにより、気力、知力、体力が充実し、一層効果的な教育活動を展開できていると回答する教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 83%	・部活動休養日や夏季休業中の学校閉庁日の設定、年休の積極的な取得に加え、採点ソフトの活用や会議のペーパーレス化などを通して業務の効率化を促し、ライフワークバランスを取ることに意識向上に努めている。 ・月2回の定時退校日が、業務負担の軽減に繋がっていないとの意見もあり、日程を見直すことで改善したいと考えている。 ・ICTの活用をさらに進めることで、教育効果を高めるとともに、教職員の負担の軽減に努めていきたい。	
	学校関係者評価委員会の評価		土日の部活動の指導には感謝している。ICTの活用など工夫して時間外勤務時間を減らして欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		ICTを活用して授業の教材を共有するなど工夫して、時間外勤務時間の削減に努めていく。			